
◇インターネット論文術〔総合科目〕M（開講単位数：2単位） 担当者：小笠原 喜康

充当科目コード（各自の履修状況により指定してください。）

0001 総合科目Ⅰ， 0002 総合科目Ⅱ， 0003 総合科目Ⅲ

0004 総合科目Ⅳ， 0005 総合科目Ⅴ， 0006 総合科目Ⅵ

配当学科：全学科 配当学年：1 学年以上

◆授業のねらい

論文の基本的なルールと作成法を身につけることを目指します。

◆準備学習

この授業では、最終的に簡単な論文を書いてもらいます。そこで論文のテーマを考えておいてください。テーマは何でもかまいません。とにかく自分が興味をもてるものの方がいいです。そしてそれをネットで少し調べておいてください。

◆授業の計画

第 1回 ガイダンス 論文3 原則、本の紹介

第 2回 リポートの書き方① 原稿用紙の使い方、資料の調べ方・探し方

第 3回 リポートの書き方② 辞典・事典・用語集、リポートの構造

第 4回 中身より見た目 レイアウトと表記法、文章配置

第 5回 わかりやすい文章にする 3 原則 無限半切、重複禁止、執拗通読

第 6回 文献・資料の集め方① 二つの文献検索法、文献資料収集

第 7回 文献・資料の集め方② アマゾン・国会・大学図書館の使いこなし

第 8回 文献・資料の整理方法 文献読込法、論文ノート、情報整理

第 9回 論文（卒論）の執筆手順 執筆計画の立て方、論構成と章構成の方策

第10回 注釈・引用・参考文献の示し方 近年型による示し方、巻末での表記

第11回 論文論（よい論文とは） よい論文の 3 原則

第12回 瀬戸際のテクニック 書式・論構成のテクニック

◆教科書

小笠原喜康『論文の書き方ーわかりやすい文章のために』ダイヤモンド社，2007，¥1,365.

◆参考書（参考文献等）

小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書，2009，¥756.

◆成績・評価

レポート中心に受講状況等を加味し、総合的に評価します。

※授業では、Microsoft-Excel とワープロソフト（Microsoft-Word または一太郎）を使用します。

※既にメディア授業で「インターネット論文術〔総合科目〕M」を合格した学生は、受講できません。

◇日本大学を学ぶ ―その120年の歴史―〔総合科目〕M (開講単位数：2単位)
担当者：竹中 眞幸

充当科目コード (各自の履修状況により指定してください。)

0001 総合科目Ⅰ, 0002 総合科目Ⅱ, 0003 総合科目Ⅲ

0004 総合科目Ⅳ, 0005 総合科目Ⅴ, 0006 総合科目Ⅵ

配当学科：全学科 配当学年：1 学年以上

◆授業のねらい

本講義の目的は、日本大学の歴史を、その創立から現代に至るまでを学習し、本学がいかにして日本最大の総合大学へと成長したかを知ることにある。ただし、日本大学という一組織の歴史をたどるのではなく、広く日本の近現代史の流れの中に本学を位置付け、本学の成長・発展の過程を通じて、近現代史を学ぶというのがねらいである。また、講義では教育機関としての大学のみでなく、時代ごとの学生生活の様相を、可能な限り学生の視点からとらえるように努める。

◆準備学習

上記「授業のねらい」でも述べておいたが、本授業は、日本大学のみ歴史を学ぶものではなく、本学の歴史が我が国の近・現代史の流れといかにかかわりつつ造り上げられてきたのかを学ぶことが目的である。

したがって、日本近・現代史の流れを可能なかぎり把握しておくことが望ましい。

◆授業の計画

- 第1 章 本講義を学習するにあたって
- 第2 章 日本大学120年の歩みⅠ
- 第3 章 日本大学120年の歩みⅡ
- 第4 章 日本法律学校の誕生
- 第5 章 明治期の学園風景
- 第6 章 大学令と日本大学
- 第7 章 戦時体制下の学徒
- 第8 章 高度経済成長と大学の大衆化
- 第9 章 大学紛争とその後の日本大学
- 第10 章 日本大学とスポーツ・文化活動
- 第11 章 活躍する日大人
- 第12 章 通信教育部の歩み

◆教科書

なし

◆参考書(参考文献等)

メディア授業の各章ごとに提示

◆成績・評価

メディア授業受講状況 (学習回数・質疑応答) 30%, 理解度チェック 30%, 最終レポート試験 40%。

※既にメディア授業で「日本大学を学ぶ〔総合科目〕M」を合格した学生は、受講できません。

◆授業のねらい

本講義では、日本とヨーロッパに生きた人物を通して、歴史学のあり方を学ぶことを目的としている。歴史学とは、「過去のできごとの確認」と「過去のできごとを解釈して位置づける」作業であり、さらに自分自身のあり方をさまざまな視点から考えていくことを目的とする。この授業では、歴史を動かす原動力でもある人間の姿をみながら、自分自身の生き方の多様な可能性を探求していく。

◆準備学習

授業で採り上げる各人物の基本的な情報を歴史系の辞典や『日本の歴史』や『世界の歴史』などで入手し、さらに、その人物が活躍したそれぞれの国・時代の政治状況や社会状況を前もって把握しておくことが望ましい。

◆授業の計画

- 1) 安倍晴明
- 2) 一 遍
- 3) 紀伊国牟婁郡の悪女 ー安珍・清姫物語の原型と熊野ー
- 4) ジョン・ウェスレー牧師 ー 一大宗教運動の産みの親
- 5) E. アレヴィ博士 ーイギリスとそのキリスト教に魅了されたフランス人学者
- 6) ジョセフ・レイナー・スティーブンズ牧師 ー心の革新を追い求めた労働運動家
- 7) 徳川吉宗 ー全国統治者意識ー
- 8) 大岡忠相 ー大岡越前の実像ー
- 9) 田中休愚 ー庶民の立場からみた改革の姿ー
- 10) オーストリア：エーレンタール外相（1906～12年）とベルヒトルト外相（1912～15年）
ー攻撃的外交政策とヨーロッパ協調の破壊ー
- 11) ドイツ：カイザー・ヴィルヘルム二世 ー二正面戦争とヨーロッパ大陸戦争ー
- 12) イギリス：グレイ外相（1905～16年） ーロシア・フランスとの協調と対ドイツ宣戦ー

◆授業の方法

メディアを利用した授業や、ディスカッションボードなどを中心としながら、参考書等による自己学習を併用する。

◆教科書

なし

◆参考書（参考文献等）

メディア授業「歴史学」の各章に掲載、適宜ディスカッションボードにて紹介

◆成績・評価

最終レポート試験 50%、メディア授業受講状況（全章を通した質疑応答とディスカッション）15%、理解度チェック（1～4回の合計）35%による総合評価

◆授業のねらい

本講義は法律学の入門として、法律がどのような特色をもっているかを平易な言葉で語りかけることを目指している。法律学は長い歴史を持つものではあるが、法律は常に日常生活の中で生きてきた人類の智慧でもある。この講座を経て六法への道が開かれる。

◆準備学習

事前に該当箇所のテキストを読んでおくことが望ましい。その中で他の章と関連する部分があれば、当該部分についてあらかじめ調べておくことで、講義の理解がより深められる。

◆授業の計画

1 章～6 章を松島が、7 章～12 章を船山が担当する。各章ごとに独立のテーマが設けられ、問題設定が行われているので、①その章の問題点や問題が生じる背景を的確に把握し、②それに対してどのような解答が考えられるのか、という点につき、主体的に勉強していけるように構成してある。1 章～6 章で総論を扱い、7 章～12 章で各論を扱っている。

1 章 法の様態・法の変容	7 章 尊厳死と安楽死
2 章 法の機能	8 章 疑わしきは罰せず
3 章 法的パターンリズム	9 章 少年にとって法は何なのか
4 章 裁判の機能	10 章 クーリング・オフ制度
5 章 ジェンダーと法	11 章 遺言書を書く
6 章 正義と法	12 章 国民参加の法律学

◆教科書

『法学 0021』通信教育教材 (教材コード 000394)

◆参考書 (参考文献等)

『新法学入門 (第2版)』弘文堂

◆成績・評価

まず、全ての単元を受講していることが評価の前提となります。その上で、理解度チェック (30%)、最終試験 (70%) による評価をします。

なお、最終試験は論文試験ですので、「論文」を書くことについて基本事項をしっかりと確認して臨んでください。基本事項としては、「在学生専用サポート」の「部報」ページ (年間スケジュール・部報) に掲載している「レポートを書くためには (PDF)」を参照してください。

※授業では、ワープロソフトとして Microsoft-Word を使用します。

◆授業のねらい

現代社会の諸現象は、政治現象を抜きにして考えることができません。個人や集団の要求が政策としての法律や予算として決定され、執行されます。私たちの生活に直接関係することが多い政治について、統治機構を中心に学んでみましょう。

◆準備学習

政治学は、社会科学のカテゴリーに入り、人間社会を対象にする学問です。人間社会においては様々な問題が発生しますが、その問題が発生する原因を究明し、問題解決の方法を見出し、より良い社会を築く必要があります。学習の準備として、メディアの記事などを参考に、社会において、如何なる問題が存在するかを検討してください。

◆授業の計画

- | | |
|---|--|
| 1 立憲民主制の統治形態
(1) 直接民主制と会議制
(2) 議院内閣制と内閣統治制
(3) 大統領制と執行府制 | 7 わが国の統治機構－行政府 (2)
(1) 内閣の組織
(2) 内閣総理大臣の権能
(3) 内閣の総辞職 |
| 2 権力分立と統治機構
(1) 権力分立の理論
(2) アメリカの大統領制と権力分立
(3) 日本の議院内閣制と権力分立 | 8 わが国の統治機構－行政府 (3)
(1) 内閣の権能-憲法第 7 3 条に掲げられた事務
(2) 内閣の責任 |
| 3 議会政治と統治機構
(1) 議会政治の原理
(2) 議会の構成 | 9 わが国の統治機構－司法府 (1)
(1) 司法権の概念
(2) 司法権の独立 |
| 4 わが国の統治機構－立法府 (1)
(1) 国会の地位
(2) 国会の組織
(3) 国会の会期 | 10 わが国の統治機構－司法府 (2)
(1) 裁判所の構成
(2) 裁判所の権能 |
| 5 わが国の統治機構－立法府 (2)
(1) 国会の権能
(2) 国会議員の地位と特権 | 11 わが国の統治機構－司法府 (3)
(1) 司法の民主的統制
(2) 違憲審査権 |
| 6 わが国の統治機構－行政府 (1)
(1) 行政の概念
(2) 憲法制定過程における行政権帰属論争 | 12 アメリカ合衆国の大統領拒否権と議会拒否権
(1) 大統領拒否権
(2) 議会拒否権 |

◆授業の方法

講義形式で行いますが、ネットを通じて質問を受付け、また受講生の皆さんが討論に参加することも歓迎されます。

◆教科書

『政治学 0023』通信教育教材 (教材コード 000279)

◆参考書 (参考文献等)

『教養政治学』関根二三夫他著 南窓社

『憲法 0121』通信教育部教材 (教材コード 000261)

◆成績・評価

課題に関するレポート試験を行います。教科内容の理解度、質疑への参加、討論への参加なども勘案したいと思います。

◆授業のねらい

科学としての経済学を理解してもらうために、経済学における基礎的な概念を中心に展開します。そして、経済学についての考え方を理解してください。

◆準備学習

現代日本は、様々な問題をかかえています。経済面では、急速な少子高齢化・グローバル化・財政危機等の難問が控えています。したがって、受講者各位はこれらの諸問題に関心を持ち、解決に向けての処方箋を考えてください。各自検討した意見をディスカッションボードで発表し、メディア授業の活性化に取り組んでください。

◆授業の計画

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1 経済学とは何か | 7 国民所得概念 |
| ・経済学とはどんな学問か | ・国民資本と国民所得 |
| ・経済現象と稀少性の法則 | ・国民所得の定義 |
| | ・国民所得の計算 |
| 2 経済学の研究の進め方 | ・グローバル化・経済のサービス化の進展による概念の変化 |
| ・経済学の方法 | ・三面等価の原則 |
| ・経済学の分野 | |
| 3 資本主義経済と社会主義経済 | 8 産業部門間の循環 |
| ・資本主義経済と社会主義経済 | ・経済表 |
| ・混合経済 | ・産業連関表 |
| | ・再生産表式論 |
| 4 貨幣について | 9 ケインズ型消費関数 |
| ・貨幣とは何か | ・議論の限定 |
| ・貨幣についての考え方 | ・ケインズ型消費関数 |
| ・貨幣の機能 | ・グラフの意味 |
| ・貨幣制度 | ・消費性向・貯蓄性向 |
| ・人々はなぜ貨幣を保有しようとするのか？ | |
| ・変化しつつある貨幣のすがた | 10 国民所得の決定 |
| | ・投資の存在について |
| 5 金融について | ・投資乗数 |
| ・金融の定義 | 11 景気循環 |
| ・金融取引について | ・景気循環の定義 |
| ・金融機関について | ・景気循環の様相 |
| ・金融政策について | ・景気循環の分類 |
| ・変化しつつある金融 | |
| 6 マクロ経済学 | 12 経済政策 |
| ・マクロ経済学の定義 | ・経済と経済政策 |
| ・国民経済の循環 | ・政府の役割 |
| | ・大きな政府か、小さな政府か |

◆授業方法

講義形式で行います。ディスカッションボードと質疑応答の場を通じて、受講生の皆さんが討論に参加してください。

◆教科書

- 1 通信教育教材『経済学 (科目コード：0024)』(教材コード：000450)
- 2 『経済学』瀬川浩・田村和彦編著 桜門書房

◆参考書

『新版 経済学』千種義人著 同文館

◆成績・評価

試験：80% 理解度チェック：20%

なお、理解度チェック 20%は、平常点と考えてください。

◆授業のねらい

心理学は、わたしたちのこころの働きを科学的に探求する学問である。本授業では、心理学 MA に続き、心理学の基礎知識の習得とともに、わたしたち人間の心理と行動を心理学の目で新たに捉え直すことをねらいとする。

◆準備学習

教科書は特に指定しないが、下記の参考書の欄に挙げるような心理学の入門書を各自で入手して事前に予習をして欲しい。具体的には、各自で用意した入門書の中の、各回のテーマに該当する章を読み、その章で学ぶべき点は何かを事前に考えるとともに、そこに登場する新しい概念や専門用語について下調べしておくことが望ましい。

◆授業の計画

- 1) 意識
- 2) 学習
- 3) 動機
- 4) 情動 1
- 5) 情動 2
- 6) 情動 3
- 7) 知能
- 8) パーソナリティ 1
- 9) パーソナリティ 2
- 10) 社会的影響
- 11) ストレス・コーピング・健康
- 12) 心の病

◆教科書

なし

◆参考書 (参考文献等)

巖島行雄・羽生和紀 (編) 「ベーシック心理学」 啓明出版
岡市廣成・鈴木直人 (編) 「心理学概論」 ナカニシヤ出版

◆成績・評価

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◇英語 I MB (開講単位数：1 単位)

担当者：猪野 恵也

充当科目コード：0041

配当学科：全学科が対象

配当学年：1 学年以上

◆授業のねらい

Frances Towers の *The Little Willow* を読みます。テキスト読解を通じて、基本的な文法事項を確認していくことを目指します。また、作品自体の面白さも味わって頂くことも望みます。語学の勉強ですから毎日少しずつ着実に学習してください。

◆準備学習

文法書での英文法の復習。品詞及び句と節、五文型、準動詞、関係詞、仮定法について例文を重視しながら復習して下さい。

◆授業の計画及び方法

【授業の方法】

メディアを利用したのテキスト読解

【授業計画】

- 1 *The Little Willow* (1)
- 2 *The Little Willow* (2)
- 3 *The Little Willow* (3)
- 4 *The Little Willow* (4)
- 5 *The Little Willow* (5)
- 6 *The Little Willow* (6)
- 7 *The Little Willow* (7)
- 8 *The Little Willow* (8)
- 9 *The Little Willow* (9)
- 10 *The Little Willow* (10)
- 11 *The Little Willow* (11)
- 12 *The Little Willow* (12)

◆教科書

『英語 I 0041』通信教育教材 (教材コード 000019)

◆参考書 (参考文献等)

英和辞典(中型で例文が豊富なもの。『ジーニアス英和辞典』、『プログレッシブ英和中辞典』など)
英文法書(中型で各自使いやすいものを選ぶとよい)

◆成績・評価

メディア授業の受講状況とインターネットを利用したの2回の試験(レポート形式)により総合的に評価する。各章を必ず2回以上は視聴してください。

◆授業のねらい

Tennessee Williams の “Happy August the Tenth” を読みながら、「初めて目にする英文を辞書さえあれば読める力」を身につけること、その力を利用して文学作品を鑑賞する楽しみを感じることをねらいとする。

◆準備学習

あらかじめ、名詞、動詞、形容詞など、品詞をしっかりと区別できるようにしておきましょう。各単元とも、授業で言及されなかった部分については、授業の内容を参考にしながら、自分で文の構造を理解できるかどうかを意識しながら読み進めていって下さい。そのためにも、辞書は丁寧に引いて下さい。単語の意味を調べるだけでなく、文型や修飾関係など、文の構造を確認するために辞書を利用するようにしましょう。

◆授業の計画及び方法

【授業の方法】

メディアを利用したテキスト読解

【授業計画】

1	テキスト	29	ページ	1	行目から	30	ページ	5	行目まで
2	テキスト	30	ページ	6	行目から	31	ページ	21	行目まで
3	テキスト	31	ページ	22	行目から	32	ページ	28	行目まで
4	テキスト	33	ページ	1	行目から	34	ページ	11	行目まで
5	テキスト	34	ページ	12	行目から	35	ページ	24	行目まで
6	テキスト	35	ページ	25	行目から	37	ページ	11	行目まで
7	テキスト	37	ページ	12	行目から	39	ページ	4	行目まで
8	テキスト	39	ページ	5	行目から	40	ページ	19	行目まで
9	テキスト	40	ページ	20	行目から	42	ページ	7	行目まで
10	テキスト	42	ページ	9	行目から	43	ページ	26	行目まで
11	テキスト	43	ページ	27	行目から	45	ページ	3	行目まで
12	テキスト	45	ページ	4	行目から	46	ページ	11	行目まで

◆教科書

『英語Ⅱ 0042』通信教育教材 (教材コード 000020)

◆参考書

英和辞典 (語法の説明や例文が豊富なもの)

文法書 (各自使いやすいものを選ぶとよい)

◆成績・評価

メディア授業の受講状況 (ディスカッションボードへの書き込みを含む・10%)、理解度チェック (1~4各 10%, 計 40%)、及びインターネットを利用した試験 (レポート形式・50%) による総合的な評価。

◆授業のねらい

主語・動詞・目的語などを正しく把握する，また修飾と被修飾の関係も正しく捉える。そして，語の意味・文の意味を正確に理解する。

◆準備学習

特別なし。

◆授業の計画及び方法

【授業の方法】

メディアを利用したテキスト読解

【授業計画】

The Lord of the Rings『指輪物語』で有名な John R. R. Tolkien が書いた短編小説 *Leaf by Niggle* を12回に分けて講読します。それぞれの回では2つ程の重要構文をポイントとします。

- 1 *Leaf by Niggle* (1)
- 2 *Leaf by Niggle* (2)
- 3 *Leaf by Niggle* (3)
- 4 *Leaf by Niggle* (4)
- 5 *Leaf by Niggle* (5)
- 6 *Leaf by Niggle* (6)
- 7 *Leaf by Niggle* (7)
- 8 *Leaf by Niggle* (8)
- 9 *Leaf by Niggle* (9)
- 10 *Leaf by Niggle* (10)
- 11 *Leaf by Niggle* (11)
- 12 *Leaf by Niggle* (12)

◆参考書 (参考文献等)

『英語Ⅲ 0043』通信教育教材 (教材コード 000021)

◆成績・評価

メディア授業の受講状況とインターネットを利用した2回の試験 (レポート形式) により総合的に評価する。

◆授業のねらい

日本人の感覚での表現と英語を母語としている人の表現ではかなりの違いがある。日本語的発想が役立たない時、実際の表現やニュアンスの違いをどのくらい理解しているかが重要となってくる。この講義では、さまざまな表現やニュアンスの違いをしっかりと理解し、ライティングの基本的ルールを身につけることを目的とする。

◆準備学習

日本語の直訳だと意味がずれてしまう表現が多くあるので、単語を調べるときには必ず、英英辞典を利用するように心がけてください。パッセージの部分での太字の表現はそれぞれの課で学習する単語です。どのような意味になるかを自分で調べ、実際の説明と一致しているかを確認してみてください。パラグラフライティングは骨格となるトピックと説明の関係が重要なので、テキストの前半の説明も参考にしてください。

◆授業の計画

- (1) 間違いやすい名詞の使い方 [1]
- (2) パラグラフの基本・指示を与えるパラグラフの書き方：過程と順序を知る
- (3) 間違いやすい名詞の使い方 [2]
- (4) 描写をするパラグラフの書き方：人や物を描写する
- (5) 間違いやすい形容詞の使い方 [1]
- (6) 主張を述べるパラグラフの書き方：主張を述べ、展開する
- (7) 間違いやすい形容詞の使い方 [2]
- (8) 比較と対照を使ったパラグラフの書き方
- (9) 間違いやすい副詞の使い方
- (10) 原因と結果についてのパラグラフの書き方
- (11) その他の間違いやすい表現
- (12) 私信とビジネス・レターの書き方

◆教科書

『英語Ⅳ 0044』通信教育教材 (教材コード 000371)

◆参考書 (参考文献等)

Longman Dictionary of Common Errors

◆成績・評価

2回の課題と受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。
なお、2回の課題提出は必須事項です。

充当科目コード：0121 配当学科：全学科

配当学年：法学部の学生は1学年以上、その他の学科は2学年以上

◆授業のねらい

憲法は、国家のあり方を規定した基本法である。したがって、憲法を知ることは、われわれが国民生活をしていく上で、極めて重要である。

本講義では、憲法とは何かを理解してもらおうよう努めたい。

◆準備学習

授業計画が以下に記載されているので、授業を理解する前提として、教材および参考書をよく読んでおくこと。授業の範囲における専門用語については、法学（法律学）辞典を引き、その意味を正確に理解すること。

◆授業の計画

- 1) 国会—1
- 2) 国会—2
- 3) 国会—3
- 4) 国会—4
- 5) 内閣—1
- 6) 内閣—2
- 7) 裁判所—1
- 8) 裁判所—2
- 9) 裁判所—3
- 10) 財政
- 11) 地方自治
- 12) 憲法改正

◆授業の方法

憲法の各条項を解釈することによって、その意味内容を明らかにしていくが、それと同時に、生きた憲法を理解するために判例をもあげる。本講義は、メディアを利用した授業であることから、教科書および参考書等による自己学習の併用となる。

◆教科書

『日本国憲法』名雪健二 有信堂

◆参考書（参考文献等）

『日本国憲法要論』廣田健次 南窓社

◆成績・評価

成績は、試験を中心に、授業の受講状況と理解度チェック（全ての提出を前提とする。提出がない場合は減点となる。）を加味して、総合的に評価する。

◇民法 I MB (開講単位数：2 単位)

担当者：根本 晋一

充当科目コード：0131 配当学科：全学科

配当学年：法律学科は1 学年以上，その他は2 学年以上

◆授業のねらい

民法総則に関する基本論点を理解する。

※ 民法 I MB(民法総則の争点)は、民法の既修学生を対象とする講座である。これから民法を学ぼうとする学生が、いきなり民法 I MBを履修することは望ましくない。最低限度、民法 I MA(民法総則の体系と基本論点)を履修し、民法総則の仕組みや基本的な専門用語を理解してから、民法 I MBを履修することを強く推奨する。

◆準備学習

予習は必要ない。但し、必ず実際に講義を視聴すること。採点者からは、答案作成者が実際に視聴したのか、それとも、視聴せずにログイン記録だけ残したのか、はっきりとわかるものである。

◆授業の計画

- 1 序 論 —民法学習の前提—
- 2 民法の全体像
- 3 民法総則の全体像

※ ここまでは、民法 I MAと同内容である。

- 4 争点集—1
- 5 争点集—2
- 6 争点集—3
- 7 争点集—4
- 8 争点集—5
- 9 争点集—6
- 10 争点集—7
- 11 争点集—8
- 12 争点集—9

◆教科書

指定しない。

◆参考書（参考文献等）

山川一陽著「民法総則講義（第四版）」（中央経済社）

山川一陽他著「要説 民法総則・物権法<新訂版>」（法研出版）

なお、関連文献については、講義の際に適宜紹介をする。

◆成績・評価

全12回の講義を受講していること。全回受講済を前提として、理解度チェックと最終試験の総合点により成績評価をする。

◇民法ⅡMB「担保物権法」（開講単位数:2単位） 担当者:山川 一陽

充当科目コード:0132

配当学科:全学科・専攻

配当学年:2学年以上

◆授業のねらい

- 1 民法学における、担保物権法の体系的な位置付を理解する。
- 2 担保物権法の体系（全体像）を理解する。
- 3 1, 2の理解・修得を前提として、担保物権法に関する基本論点を理解する。

※ 民法ⅡMB(担保物権法)は、民法ⅡMAの続編である。ゆえに、これから民法Ⅱを履修する学生は、山川民法ⅡMAを履修してから、民法ⅡMBを履修することを強く推奨する(順序を逆転すると、理解に差し支えを生じる)。

◆準備学習

前回講義に相当する部分の、添付レジュメと自分のノートの記述内容をよく復習してから、次回講義に臨むこと。

◆授業の計画

- 第1章 担保物権総論
- 第2章 担保物権の種類と機能
- 第3章 担保物権の通有性
- 第4章 留置権①
- 第5章 留置権②
- 第6章 同時履行の抗弁権と留置権
- 第7章 先取特権
- 第8章 質権
- 第9章 抵当権①
- 第10章 抵当権②
- 第11章 抵当権③
- 第12章 法定地上権
- 第13章 抵当不動産の第三者取得者の地位
- 第14章 譲渡担保
- 第15章 仮登記担保

◆教科書

本講義に添付されるレジュメ
「担保物権法」第3版 山川一陽 弘文堂

◆参考書(参考文献等)

なし。

◆成績評価基準

全15回の講義を受講していること(ログにて確認をする)。全回受講済を前提として、理解度チェック(全回受験すること。ログにて確認をする)と、最終試験の総合点により成績評価をする。

◇国文学講義Ⅴ（近代） MB （開講単位数：2単位）	担当者：永岡 健右
充当科目コード：0338 配当学科：全学科が対象	配当学年：2学年以上

◆授業のねらい

明治から大正期にかけての小説を中心とした近代文学の特性・特色を中心に考察する。

具体的に作品を読む機会を多くし、それぞれの時代性や環境が文学作品をどのように変化させていったか、また近代人の意識や美意識、価値感、道德感などが、どのように形成されていたかを考えてみよう。

また名作と称される小説を読むことによって文学の魅力に浸ってみよう。

◆準備学習

本講義は「国文学講義Ⅴ（近代）」です。日本文学が上代、中古、中世、近世、近代、現代と時代区分され、その「近代」に該当する科目です。近代文学はそれまでの上代文学、中古文学、近世文学とどこがどのように変わっていったのか、本講義を聴講する前に考え、メモをとるなどして自分の文章でまとめてみておいて下さい。特に個人の尊重や自我の問題に注目してみましょう。

◆授業の計画及び方法

全十二章から構成される。

- 1 国文学講義Ⅴ（近代）MBの学習目標と範囲
- 2 写実主義の時代（1）
- 3 写実主義の時代（2）
- 4 「文学界」と北村透谷ー浪漫主義へー
- 5 西欧からの自然主義思潮の移入
- 6 日本自然主義文学
- 7 明治40年代の文学
- 8 非自然主義の文学ー夏目漱石・森鷗外の文学ー
- 9 反自然主義の文学①ー理想主義の文学『白樺』ー
- 10 反自然主義の文学②ー「新思潮派」の文学ー
- 11 新感覚派の文学ーモダニズムの文学ー
- 12 プロレタリア文学ー労働者の文学と転向ー

◆教科書

「浮雲」（二葉亭四迷・岩波文庫）を第三章で、「破戒」（島崎藤村・岩波文庫）を第六章で使用しますので、事前に購入し、読んでおいてください。

◆参考書

なし

◆成績・評価

各種理解度チェックの内容、受講状況、教科内容の理解度、試験（レポート形式）などにより総合的に評価する（試験の提出がない場合は採点対象にしません）。

◆授業のねらい

MAでは英国の文学をあつかいましたので、このMBではアメリカの文学に表れている思想・感覚などの特徴をほぼ歴史的展開に即し、時代的な趨勢と個々の作家作品について考察し、アメリカ文学の歴史からアメリカ文化の特長についての理解をふかめることをめざします。

◆準備学習

全12回、章に相当する各回毎のタイトルを列挙しておきますから、事前の展望と事後の復習に利用してください。特に、「ナショナリズム」、「アメリカン・ルネッサンス」、「リアリズム」、「自然主義」、「シカゴ・ルネッサンス」、「失われた世代」といった語句については、事前に概略を調べておくことをお勧めします。

◆授業の計画及び方法

全体の目次にあたるものは下記のとおりです。各回ごとに理解度チェックの問題がありますから、活用してください。講義を聴いたあとで、この問題で理解度をチェックし、自信がなかったり、解答をまちがえたりしたときには、もう一度講義を聴きなおして、正しい解答に到達するようにしてください。

1. アメリカ文化・文学の特徴と植民地時代の文学
2. 独立戦争前後
3. アメリカン・ルネッサンス
4. 放浪の精神・国際感覚
5. リアリズムの台頭・地方の作家たち
6. 社会問題と文学——地方の文学から自然主義の文学へ
7. 自然主義の小説とアメリカ的誠実
8. 大衆文化とモダニズム
9. シカゴ・ルネッサンス、さまざまなルネッサンスそしてフォークナー
10. 南部・中西部・西部の作家たち
11. 「失われた世代」(つづき)：演劇の諸相
12. 第二次大戦後の多様化

◆教科書

この講義は、従来の教科書を用いてのものとはまったく別の講義なので、この講義だけが教科書だと思っていただきたい。したがって、講義を聴きながら適宜ノートをとることをお勧めする。

◆参考書

- 巽孝之著『アメリカ文学史』慶応義塾大学出版、2003
別府恵子・渡辺和子編『新版アメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1989
大橋吉之輔著『アメリカ文学史入門』研究社、1987
大橋健三郎・斉藤光・大橋吉之輔編『総説アメリカ文学史』研究社出版、1975
大橋健三郎・斉藤光編『アメリカ文学史』明治書院、1967

◆成績・評価

メディア授業の受講状況（ディスカッションボードへの書き込みを含む・10%）、理解度チェック（1～4各10%、計40%）、及びインターネットを利用した試験（レポート形式・50%）による総合的な評価。

充当科目コード：0411

配当学科：全学科・専攻

配当学年：文学専攻（英文学）は1学年以上，その他は2学年以上

◆授業のねらい

イギリス文学史 I MAに続いて、18世紀以後の主要作家・作品を概観する。文学史は作家・作品を暗記するだけではなく、その時代と社会がどのような作品を生み出していくかに目を向け、文学が果たす役割を考えることが大切である。また、いつかその作品を読んでみようという気持ちになれば、この講義も無駄とはならないであろう。

◆準備学習

通信教育教材『イギリス文学史 I』のうち、17世紀王政復古期以後の部分に目を通しておくこと。また、教材に付けられたアンソロジーの部分から、ポープやブレイクなどの作品抜粋にも目を通しておくことが望ましい。ただし、時間がない場合は、この授業によく耳を傾けるだけでよい。

◆授業の計画

1. 王政復古から古典主義の時代へ
2. 新古典主義の文学
3. 作品を読む<1>ドライデンとポープ
4. 17世紀の演劇・ジャーナリズム・女性作家の登場
5. ジョンソン博士とその周辺
6. 小説の時代の始まり
7. 近代小説の幕開け
8. ヘンリー・フィールディングとトバイアス・スモレット
9. スターンとセンチメンタル小説、及び家庭小説
10. ゴシック小説家たち
11. ロマン主義の前衛詩人たち
12. 作品を読む<2>グレイ、クーパー、コリンズ
13. ウィリアム・ブレイクの詩を読む
14. ロバート・バーンズの詩を読む
15. 19世紀に向けて

◆教科書

なし

◆参考書（参考文献等）

通信教育教材『イギリス文学史 I（科目コード：0411）』（教材コード：000111）

その他、市販の各種イギリス文学史

◆成績評価基準

最終試験による。試験は1800～2400字前後にまとめること。あまり少なすぎても多すぎても不可。

◆授業のねらい

英語がどのような発達・変化を遂げて今日の姿になったか、歴史的な流れの基礎的な知識を習得する。過去の歴史を振り返り、英語の未来の姿を想像してみましょう。

◆準備学習

参考図書を読んでおくとよいでしょう。

◆授業の計画

第2部 発音, 語形変化, 文の歴史的変遷

第1章 インド・ヨーロッパ祖語の母音交替

第2章 ゲルマン祖語のグリムの法則

第3章 古英語の母音変異

第4章 近代英語の大母音推移

第5章 名詞の性・数・格／不規則複数形

第6章 代名詞／形容詞／副詞

第7章 強変化動詞／弱変化動詞(1)

第8章 弱変化動詞(2)／特別動詞

第9章 二重(多重)否定／語順の確立／属格

第10章 It is me／関係代名詞

第11章 非人称動詞

第12章 動詞形の多様性／接続法

◆授業の方法

メディアを利用して聴講、課題を提出。

◆教科書

なし

◆参考書(参考文献等)

『英語史 0441』通信教育部教材(教材コード000117)

『図説英語史入門』中尾俊夫・寺島廸子著 大修館書店

『講談英語の歴史』渡部昇一著 PHP新書163

『英語の歴史』中尾俊夫著 講談社現代新書958

『英語発達史』改定版 中島文雄著 岩波全書セレクション 岩波書店

◆成績・評価

受講状況, 中間報告課題, 最終報告課題等を総合的に評価する。

充当科目コード: 0445 配当学科: 全学科

配当学年: 文学専攻(英文学)は1 学年以上, その他は2 学年以上

◆授業のねらい

本講座では, 英語の文法(ことばの規則)について, 基礎的なレベルを定着させることを目的とする。MA で学んだ「用語」や「品詞」などを活用しながら, 名詞・代名詞・動詞などに加えて, 助動詞・形容詞・副詞・前置詞・接続詞などの働きを学んでいく。

◆準備学習

講座を受講するにあたり, 事前に授業計画に含まれる各文法項目の復習を, 手元にある文法書などを参照しながら行ってください。また, 特に品詞の区別がまだ不十分な人は, 名詞・動詞といった基本的な品詞の働きや種類についても確認をしておいてください。構造的には準動詞・従属接続詞・関係詞を十分に理解することが重要です。文法がある程度得意な人も, これらの項目は手元の文法書で再度確認しながら受講してください。

◆授業の計画

第1章 助動詞(1): 助動詞とは

第2章 助動詞(2): 法

第3章 助動詞(3): 法助動詞

第4章 助動詞(4): 「アスペクト」と「動作動詞/状態動詞」, 時制, 未来を表す表現

第5章 助動詞(5): 完了形, 進行形, 受動態

第6章 形容詞・副詞: 形容詞・副詞とは, 補部になる形容詞・副詞, 修飾語としての形容詞・副詞, 比較

第7章 前置詞: 前置詞とは, 意味による前置詞の分類, 基本的前置詞の意味と用法, 群前置詞

第8章 不定詞: 不定詞とは, 不定詞の意味上の主語, 不定詞を含む表現

第9章 分詞: 分詞とは, 名詞修飾の分詞, 補部になる分詞, 分詞構文

第10章 動名詞: 動名詞とは, 動名詞の働き, 動名詞の意味上の主語, 動名詞と分詞・不定詞

第11章 接続詞: 接続詞とは, 等位接続詞, 従属接続詞, 名詞的従属接続詞, 副詞的従属接続詞

第12章 関係詞: 関係詞とは, 関係代名詞, 関係副詞

◆教科書

なし

◆参考書(参考文献等)

安藤貞雄(1983)『英語教師の文法研究』大修館。

安藤貞雄(1985)『続・英語教師の文法研究』大修館。

安藤貞雄(2005)『現代英文法講義』開拓社。

江川泰一郎(1991)『英文法解説』改訂三版。金子書房。

安井稔(1996)『英文法総覧』改訂版。開拓社。

綿貫陽・宮川幸久・須貝猛敏・高松尚弘・マークピーターセン(2000)『ロイヤル英文法』改訂新版。旺文社。

Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, CUP.Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman.Swan, Michael (2005) *Practical English Usage*, 3rd ed., Oxford UP.Thomson, A. J. and A. V. Martinet (1986) *A Practical English Grammar*, 4th ed., Oxford UP.

◆成績・評価

メディア授業受講状況(質疑応答, ディスカッション) 20%, 理解度チェック 10%, 最終試験 70%

◆授業のねらい

本講義の目的は次の2つに大別される。ひとつは、話しことばとしての英語の主要な特徴を学ぶことを通して、人間の音声コミュニケーションについての理解を深めることである。音声言語という観点から、英語と日本語の言語としての特徴を探り、英語らしさ・日本語らしさについての考えを発展させてほしい。もうひとつの目的は、英語音声を自覚的に運用するための音声学の視点を身につけることである。受講者が自身の英語発音や日本語発音についてじっくりと内省・観察し、英語の発音習慣を獲得するための基礎づくりと英語音声の総合的理解を目指してほしい。

◆準備学習

英語音声や日本語音声について、日頃、不思議に思っていること(=疑問点)や、難しいと感じる英語発音の区別、聴き取りで難しさを感じる点など、広い意味での「英語音声や日本語音声についての感想・疑問」を、事前書き出ししておくこと。普段感じている疑問点を、音声学の観点から、講義期間中に探究してほしい。

◆授業の計画

英語音声学 MB では、単語や文を単位とした音声特徴を取り上げ、英語プロソディの特徴と話しことばにおける発音の変化について概説する。

- 1) 話しことばのプロソディ
- 2) 語強勢 (1)
- 3) 語強勢 (2)
- 4) 英語音声の観察と発音練習 (1)
- 5) プロソディと文の発音
- 6) イントネーション (1)
- 7) イントネーション (2)
- 8) 英語音声の観察と発音練習(2)
- 9) 話しことばにおける発音の変化 (1)
- 10) 話しことばにおける発音の変化 (2)
- 11) 英語音声の観察と発音練習(3)
- 12) 日英語のプロソディと音声転移

◆授業の方法

受講者各自が、メディア授業の受講と理解度チェックを計画的に進めることが中心となる。学習時には講義用ディスカッションボードを必ず閲覧するとともに、積極的に利用して受講者間で意見交換を行い、英語音声・音韻体系についての理解を深めてほしい。

◆教科書

なし

◆参考書 (参考文献等)

メディア授業「英語音声学」の各章に掲載。

◆成績・評価

最終レポート試験を中心に、メディア授業受講状況・理解度チェック・講義用ディスカッションボード参加状況を加味して、総合的に評価する。

◆授業のねらい

紀元前 221 年に秦の始皇帝によって天下＝世界が統一されて誕生した「世界帝国」としての中華帝国は、2000 年以上ものあいだ存在しつづけてきました。本講義では、いくつかの精選したキーワードを設定し、それに沿った学習を通して、中華帝国時代の制度や社会の特徴を、周辺民族の動向とあわせて鮮明に理解することを目的とします。

◆準備学習

周辺民族の動向をも含めた中華帝国史を学ぶ意義を発見するためには、今の中国との差異を自覚しておく必要があります。学習の準備として、『東洋史概説 0623』（通信教育部教材）や高等学校で使用した教科書「世界史 B」の中国史関連部分を熟読しておくこと、授業の理解が深まります。

◆授業の計画及び方法

- 1) 中華帝国史概説 I
 - (1) 古代 (2) 中世 (3) 「唐宋変革」
- 2) 中華帝国史概説 II
 - (1) 近世 (2) 近代 (3) 最近の中国
- 3) 皇帝制度
 - (1) 秦の始皇帝と皇帝制度の確立 (2) 天人相関説と皇帝の宿命 (3) 君主独裁体制下の皇帝
- 4) 科挙制度
 - (1) 科挙前史と科挙制の沿革 (2) 科挙の仕組みと社会問題 (3) 科挙制度の廃止が意味するもの
- 5) 官僚と知識人
 - (1) 伝統中国の官僚制 (2) 昇進の仕組みと日常生活 (3) ある知識人の生涯
- 6) 地方統治と都城制
 - (1) 地方統治の仕組み (2) 都城制と都市構造 (3) 地方都市「鎮」の出現
- 7) 民衆と信仰
 - (1) 民間信仰の神々 (2) 碑文史料に見える神々の靈験 (3) 民衆の精神世界
- 8) 周辺民族 I
 - (1) 中華思想と「蛮夷戎狄」 (2) 万里の長城と北方民族 (3) 「征服王朝」と「漢化」
- 9) 周辺民族 II
 - (1) 遼・金と南北システム (2) モンゴル大帝国と中国支配
- 10) 周辺民族 III
 - (1) 明の永楽帝と大帝国の夢 (2) 北虜南倭
- 11) 周辺民族 IV
 - (1) 多民族国家・清朝の成立 (2) 清朝入関と支配体制のゆらぎ
- 12) 周辺民族 V
 - (1) 最大領域の形成と清朝皇帝の性格 (2) 近現代の中国少数民族

◆教科書

なし

◆参考書

メディア授業「東洋史概説」の各章に掲載

◆成績・評価

最終レポート試験 (50%)、理解度チェック (25%)、受講状況及び質疑やディスカッションボードでの発言 (25%) による総合的評価。

◇経済学概論 MB (開講単位数：2単位)

担当者：藤本 訓利

充当科目コード：0986 配当学科：全学科

配当学年：経済学部は1学年以上，その他の学部は2学年以上

◆授業のねらい

この講義では、一国の産出量や雇用量や物価などがどのようなメカニズムで決定されるかを分析する、いわゆるマクロ経済学についてできる限り平易に解説します。しかし、マクロ経済学の理論だけを説明するのではなく、マクロ経済に関する統計資料を用いて、理論の確認もあわせて行います。

◆準備学習

- ・日頃から、新聞の経済面やニュースに触れ、経済の動きに関心を持つようにして下さい。
- ・中学・高校で学んだ「一次関数のグラフ」について復習をしておく、第3章以降の学習の理解度がスピードアップするでしょう。

◆授業の計画

第1章「マクロ経済学とはどのような学問か」、第2章「国民経済計算」、第3章「国民所得の決定理論：総需要アプローチ」、第4章「乗数と政府部門」、第5章「貨幣とマネーサプライの変化」、第6章「貨幣需要と利子率」、第7章「 $IS = LM$ 分析」、第8章「 $IS = LM$ 分析と財政・金融政策」、第9章「開放経済モデル」、第10章「物価水準と産出量」、第11章「インフレーションと失業」、第12章「経済成長の理論」

◆教科書

『経済学概論 0986』通信教育部教材（教材コード 000244）

※上記の講義の内容のうち、第9章以降は、通信教育部の教材にはほとんど説明されていませんので、下記の参考書をお勧めします。いずれか、1冊があれば、十分だと思います。ただし、廣松毅他『マクロ経済学』（改訂版）は、上巻だけで講義内容のほぼ9割が説明されていますが、絶版のため図書館などで利用してください。

◆参考書（参考文献等）

中谷 巖『入門 マクロ経済学』（第5版）日本評論社

福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』（第4版）有斐閣アルマ

廣松毅／R. ドーンブッシュ／S. フィッシャー『マクロ経済学』（改訂版），CAP出版（絶版）

◆成績・評価

メディア授業の受講状況（15%）、理解度チェック（30%）、最終試験（55%）を総合的に判断し単位を認定します。ただし、理解度チェックが3回以上提出されていることを前提として評価します。

◆授業のねらい

このメディア授業では、国際マクロ経済学やその経済政策関連の内容について理論的な解説を中心に説明を進めながら、戦後の国際通貨秩序の確立や国際通貨制度の変遷、そして円高ドル安の国際経済現状を踏まえた外国為替問題も加えて逐次に解説していきます。メディア授業の素材構成は本通信教育部『国際経済論』教材の第3章と第4章に基づいていますが、国際マクロ経済政策や外国為替相場の理論を学習するには、マクロ経済学の基礎理論および外国為替市場に関する基礎知識が必要としますので、このメディア教材にはこれらの基礎部分の解説も含まれています。

インターネットを利用した受講を前提とするこのメディア授業は解説中心型の進め方を採っています。国際経済学はやや抽象度の高い応用経済学分野の学問ではありますが、テキストや参考書の反復学習によって、より高い学習効果が得られます。講義用ディスカッションボード(掲示板形式)が用意しており、担当教員への質問や学生同士の学習情報交換も学習に大いに役立ちます。メディア授業の特性を活かして開かれた学習環境を目指して頑張りましょう。

◆準備学習

国際経済論は応用経済学分野の科目である。経済学概論、経済原論(経済学原論)、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することをお勧めする。事前にマクロ経済学関連の基礎理論を復習すること。

◆授業の計画及び方法

- | | |
|--------------------|----------------------|
| ① 国際取引と国際収支 | ⑦ IS=LM=BP 分析 |
| ② 外国為替市場と国際金融 | ⑧ 開放経済と経済政策 |
| ③ 経常収支と貿易弾力性 | ⑨ 外国為替相場の決定メカニズム |
| ④ 国際収支と国内経済のマクロ的関連 | ⑩ 為替相場の変動の実態経済に与える影響 |
| ⑤ 円高日本経済と経常収支 | ⑪ 国際通貨制度 |
| ⑥ マクロ経済分析の基礎 | ⑫ 外国為替制度の選択 |

◆教科書

『国際経済論 0737』通信教育教材(教材コード 000281)

◆参考書(参考文献等)

メディア授業の進捗状況に合わせて随時紹介する。

◆成績・評価

平常点 60% (200 字程度のレポート形式の理解度チェック 4 回 40%, メディア授業の受講状況 20%) と最終試験 40%による総合評価。

◆授業のねらい

コンピュータ，インターネットをはじめとした IT 機器の歴史，現状，トレンド，技術に関する正しい知識を得ると共に，ビジネスや日常生活での利用において大切な「常識」を原理に基づいて身につけることを目標とします。

◆準備学習

理解度チェックは授業の内容をベースにしていますが，応用的な問題を出題することがあります。参考書や web などを活用して，プラスアルファの知識を得ることで，授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。

◆授業の計画及び方法

- 1 コンピュータの基礎
- 2 文書作成
- 3 ファイルとフォルダ
- 4 プレゼンテーション資料作成
- 5 インターネット利用
- 6 IT 機器の現状
- 7 データ通信技術
- 8 ネットワーク
- 9 インターネット技術
- 10 ビジネスにおけるインターネット利用
- 11 暗号化
- 12 セキュリティ

◆教科書

『情報概論 0773』 通信教育教材 (教材コード000453)

◆参考書 (参考文献等)

- IT パスポート試験教科書 (出版社不問)
基本情報技術者試験教科書 (出版社不問)

◆成績・評価

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し，総合的に評価します。

充当科目コード：0811

配当学科：全学科が対象

配当学年：商業学科が1学年以上、商業学科以外は2学年以上

◆授業のねらい

商学とは何か、商学総論の全体像が、どのような内容で構成されているかについては、論者によって多様な考え方があり、統一的な体系は今なお存在していませんが、この授業では、MAに続いて、社会経済的な視点より商学を捉えることとします。MAでは、抽象的内容をもって構成されていましたが、このMBでは、機構論、機関論を中心に、より具体的な問題について解明したいと思います。

◆準備学習

特記事項なし

◆授業の計画及び方法

- 第1章 流通機構
- 第2章 卸売市場
- 第3章 商品取引所
- 第4章 証券取引所
- 第5章 商社
- 第6章 卸売商業
- 第7章 小売商業
- 第8章 小売商業の商圏設定
- 第9章 小売商業形態
- 第10章 小売商業の共同化・協業化
- 第11章 小売商業のチェーン化
- 第12章 金融・保管・輸送・保険

◆教科書

なし

◆参考書

必要に応じて授業の中で指示します。

◆成績・評価

受講状況、理解度チェックの提出状況・内容及び最終試験（レポート形式）により総合的に評価します。

◆授業のねらい

貿易政策の国際的枠組みや歴史的背景を学び、貿易に関する知識を身につける。それを踏まえて、現状を分析する能力を養う。貿易の現状に加え、貿易をめぐる諸課題（「非貿易的関心事項」等）、貿易紛争の実態についても学習する。

講義全体を通じて、貿易に関連する問題発見・問題解決能力の養成に努める。

◆準備学習

メディア授業の各章、テキストを熟読し、基本的な用語をしっかりと理解すること。次に、各章それぞれの学習をすると同時に、全体を通じてその章がどのような位置づけにあるのか、すなわち全体像を意識しながら学習を進めること。日刊経済紙（新聞）を購読することを強く推奨する。

◆授業の計画及び方法

国境を越えてグローバルに行われる貿易は、貿易を促進したり、場合によっては制限したりするような方策（貿易政策）に影響を受ける。本講義では、こうした貿易政策とは何か、何故必要なのか、また誰がどのような目的で行うのか、またその手段にはどのようなものがあるか、貿易政策はどのような制約を受けるのか、異なる貿易政策が衝突するとどうなるのか、ビジネス社会が行う貿易取引は貿易政策にどのような影響を受けるか等の疑問を紐解いていく。

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1. 「貿易政策」総論 | (7) 補助金・相殺措置 |
| 2. 国際貿易、投資の現状、貿易取引の実際 | (8) サービス貿易 |
| 3. 貿易政策の変遷と国際通商体制 (GATT/WTO) | (9) 貿易と知的財産権 |
| 4. 貿易政策の手段と制約 | 5. 貿易と地域経済統合、自由貿易協定 |
| (1) 貿易の諸原則 | 6. 貿易と投資 |
| (2) 関税政策 | 7. 貿易・投資政策の衝突と処理 |
| (3) 非関税政策 1：農業貿易と検疫措置 | 8. 貿易政策の諸課題 |
| (4) 非関税政策 2：貿易の技術的障害、標準化、相互承認 | (1) グローバリゼーションと市民社会、途上国問題 |
| (5) セーフガード | (2) 貿易と環境、労働、競争、文化 |
| (6) アンチダンピング | |

◆教科書

『貿易論 0822』 通信教育教材（教材コード000439）

◆参考書

UFJ 総合研究所新戦略部通商政策ユニット編『WTO入門』日本評論社（2004）

久保広正『ベーシック貿易入門第3版』日本経済新聞社（2005）

◆成績・評価

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価する。

◆ 授業のねらい

現代社会における企業の存在感の大きさは圧倒的です。企業は1国の経済力の源泉であると同時に、私たちの日々の生活を支えています。企業は、私たちに豊かで便利な生活をもたらしてくれる反面、さまざまな不祥事、過労死など、深刻な問題も生み出しています。企業が倒産すれば、たんに経営者や従業員だけでなく、取引先や顧客も含め多くの関係者に甚大な影響を及ぼします。そこでこの講義では、現代社会を支えている企業の経営を、健全かつ有効に行うために必要な基礎知識を提供することを意図しています。具体的には、企業経営の主要職能について学んだ後、現代企業が取り組むべき重要な経営課題について検討します。

◆ 準備学習

新聞、経済誌（日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、週刊エコノミストなど）を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。

◆ 授業の計画

- 1 経営戦略と組織
- 2 マーケティング
- 3 生産システムの進化
- 4 人的資源管理
- 5 動機付けとリーダーシップの理論
- 6 財務管理
- 7 日本型経営の特徴とその変容
- 8 中小企業とベンチャー企業
- 9 経営の国際化とグローバリゼーション
- 10 M&A
- 11 企業の社会的責任と企業倫理
- 12 企業評価「良い企業とは何か」

◆ 教科書

使用しない

◆ 参考書（参考文献など）

- ・ 『経営学 0841』通信教育部教材（教材コード 000271）
- ・ 経営学検定試験協議会監修、経営能力開発センター編『経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本』中央経済社、平成23年

◆ 成績・評価

最終試験を中心に、受講状況や理解度チェックなどを加味し、総合的に評価します。

充当科目コード：0854

配当学科：全学科が対象

配当学年：商学部は1学年以上，その他の学部は2学年以上

◆授業のねらい

簿記の基本原理は、今から500年程前のルネッサンス時期、イタリアのルカ・パチョリによって体系化された。今では、この複式簿記の基本原理が全世界に普及している。

本講義の目的は、企業のさまざまな取引を複式簿記の原理にもとづいて仕訳し、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)作成までの一連のプロセスを学ぶことである。最終的には、この講義を受講することによって、日商簿記検定試験3級の資格ならびに2級(商業簿記のみ)の基礎を習得することを目的とする。(※日商簿記検定試験2級の試験内容は、商業簿記と工業簿記がある。本講義において、工業簿記は取り扱わない。)

◆準備学習

本講義のレベルは日商簿記検定試験2級と同等である。したがって、まず日商簿記検定試験3級レベルの学習を済ませておくことが必要である。この3級レベルの簿記を十分に理解していれば、本講座を問題なく進めることができる。何事も「基本」が大事である。

◆授業の計画

本講義は、日商簿記検定試験2級のレベル(商業簿記)の解説を行う。その内容は、下記に示すとおりである。

- | | | | |
|--------------|------------------|-------------------|--------|
| 1. 簿記の概要 | 2. 当座預金取引・有価証券取引 | 3. 債権・債務取引と引当金の処理 | |
| 4. 手形取引 | 5. 商品売買取引 | 6. 特殊商品売買取引 | |
| 7. 固定資産・繰延資産 | 8. 株式会社会計(1) | 9. 株式会社会計(2) | |
| 10. 本支店会計(1) | 11. 本支店会計(2) | 12. 伝票 | 13. 決算 |

◆授業の方法

まず、各章の概要を「導入」で説明し、内容の説明、例題の解説、そして設定問題を解く。しかし、これだけでは不十分であるので、各人が市販されている日商簿記検定試験2級(商業簿記)対応のワークブック等で実際に問題を解いていただきたい。より多くの問題をこなせば、商業簿記に対する理解は格段に向上するであろう。

◆教科書

教科書は特に指定しないが、下記の参考書を見ていただきたい。なお、商業簿記(3級)を学ぶには、通信教育教材『簿記論I(科目コード：0854)』(教材コード：000454)を参照されたい。

◆参考書

渡部・片山・北村編著『新検定簿記講義 2級 商業簿記』中央経済社

渡部・片山・北村編著『新検定簿記ワークブック 2級 商業簿記』中央経済社

◆成績・評価

簿記は、一段階ずつ理解しながらステップアップするものである。したがって、メディア授業の受講状況を40%、理解度チェック20%、最終試験を40%として総合的に成績評価を行いたい。

※授業では、Microsoft Word 及び Microsoft Excel を使用します。

◇現代教職論 M (開講単位数：2単位)

担当者：古賀 徹

充当科目コード：0903

配当学科：全学科

配当学年：2 学年以上

◆授業のねらい

「理想とする教師像」とはどのようなものか。本授業では、教職の意義、教員の資質、および教員の役割、教員の職務内容等に関する理解を深めることをねらいとしている。特に現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考えていくことにより、受講者が教職への意識を高めていくようにしていきたい。

◆準備学習

この授業では教員養成の段階で学んでおくべき事項や学校現場で直面する課題を〈題材(教材)〉としてとりあげ、学んでいきます。周囲に存在する様々な教育問題、教育に関する話題・情報について関心を持ち「教師としてどうするべきか」と考える習慣をつけましょう。

◆授業の計画

- 第 1 章 教職の教育—教員養成と現職教員の成長
- 第 2 章 教師の仕事—教科指導・生活指導・学級経営
- 第 3 章 子ども(生徒)とのかかわり—生徒理解と授業の前提条件
- 第 4 章 様々な集団への対応(1)—集団活動を通じて学んでいく生徒たち
- 第 5 章 様々な集団への対応(2)—集団指導・グループ学習の方法論
- 第 6 章 最近の子ども事情(1)—非行・ストレス・いじめ
- 第 7 章 最近の子ども事情(2)—不登校への対応
- 第 8 章 教員養成の歴史(1)—戦前の教員養成
- 第 9 章 教員養成の歴史(2)—戦後の教員養成
- 第10章 世界の教員養成
- 第11章 教員に関する法令—地位、身分、研修、免許更新制
- 第12章 教室に立つために—教育実習と学習指導案の構成

◆教科書

なし

◆参考書(参考文献等)

- 『現代教職論 0903』通信教育教材(教材コード000418)
- 『求められる教師像と教員養成』山崎英則・西村正登編著(ミネルヴァ書房)
- 『転換期の教師』油布佐和子(放送大学教材)

◆成績・評価

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◇教育原論／教育の思想M (開講単位数：2単位)	担当者：関川 悦雄
充当科目コード：0901／0904	配当学科：全学科が対象 配当学年：2学年以上

◆授業のねらい

私たちが日常的に経験する教育現象や教育言説は自明なものとして認識され、疑いを持って考察されることはほとんどありません。本講義では、こうした教育現象や教育言説のあり様を思想史的に学び、理解することを目指します。教育思想の根源をたどりながら、現代にも通底する教育の営みを批判的に考えてみたいと思います。

◆準備学習

「本授業は、各章ごとに代表的な教育思想家を取り上げ、現代にも通底する教育思想の根源をたどります。主なる内容は、教育の目的論と教授理論の展開ですが、各思想家の教育思想を学びながら、現代の教育のあり方にも考え重ねて本授業に臨んで下さい。また、理解度チェックなどを使って、各自が自分の学習内容を確認するようにして下さい。」

◆授業の計画

- (1) なぜ教育思想を学ぶのか
- (2) コメニウスの教授学 ―― 斉教授の方法 ――
- (3) ロック自律論 ―人間の理性による自律―
- (4) ルソーの市民教育 ―子どもの発見―
- (5) ペスタロッチの人間教育 ―直観教授の確立―
- (6) ヘルバルトの科学的教育学 ―教授過程の定型化―
- (7) フレーベルの幼児教育 ―幼稚園の創設―
- (8) マンの公教育普及論 ―教育を受ける権利思想―
- (9) デューイの新教育思想 ―児童中心の教育―
- (10) ニールの自由主義教育論 ―フリー・スクールの創設者―
- (11) ブーバーの教育的出会い ―教師と子どもとの関係―
- (12) イリイチの脱学校論 ―自由な学習機会の保障―

◆授業方法

各章ごとに代表的な教育思想家を取り上げ、現代にも通底する教育思想の根源をたどります。主なる内容は、教育の目的論と教授理論の展開ですが、各思想家の教育思想を学びながら、現代の教育のあり方も考察することが重要です。理解度チェックなどを使って、各自が自分の学習内容を確認することを勧めます。

◆教科書

『教育原論／教育の思想 0901／0904』通信教育教材（教材コード：000199）

◆参考書

特になし

◆成績・評価

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

〈受講状況(20%)・理解度チェック (30%)・試験(50%)〉

※授業では、ワープロソフトとして Microsoft-Word を使用します。

◆授業のねらい

本講義は、第1部は我が国の学校制度・教育制度の現状や課題を分かり易く解説する。第2部は、我が国の教育行政制度の基本と諸外国の教育制度の比較検討を行う。第3部は、教育制度の特殊な問題として、ジェンダー問題と情報公開制度を取り上げる。最後に、我が国の教育制度改革の動向を概括しながら、我が国の教育制度改革の動向と将来の課題をさぐる。

◆準備学習

指定された教科書を丁寧に通読すること。

その際には、日本の教育制度の特徴や問題点を念頭に置きながら読み進めること。

新自由主義的な方向へと進むわが国の教育改革の全体像をおおまかに理解しておくこと。

◆授業の計画

第1部

- (1) 教育制度の理念と構造
- (2) 学校の制度と組織
- (3) 教室内の制度と組織
- (4) 学校歴偏重から生涯学習への移行
- (5) 私立学校の制度と組織

第2部

- (6) 戦後日本の公教育政策・制度
- (7) 日本の中央・地方教育行政
- (8) アメリカの教育制度
- (9) アジアの教育制度

第3部

- (10) ジェンダー問題と女子教育
- (11) 教育情報と情報公開制度
- (12) 我が国の教育制度改革の動向

◆授業方法

我が国の学校制度・教育制度の問題を、広く世界的な視野から考える。欧米の教育制度とも比較しながら、学校制度・教育制度の基本的な問題を検討する。授業の形態は講義形式であるが、授業中に課題を与え、その課題をまとめるという作業も行う。

◆教科書

『教育制度論 0912』通信教育教材 (教材コード000285)

◆参考書

特になし

◆成績・評価

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価する。

〈受講状況(20%)・理解度チェック(30%)・試験(50%)〉

◇教育の方法・技術論M（開講単位数：2単位）

担当者： 壽福 隆人

充当科目コード

0926 教育の方法・技術論（C カリキュラム（新免許法課程）・D カリキュラム）

配当学科：全学科・専攻 配当学年：2学年以上

◆授業のねらい

教育方法に関する理論の展開を歴史的に理解して、今日の学校教育に必要な教授方法と技術に関する基礎的知識を獲得する。さらに、学校教育における今日的課題に対応できる教師としての技能を高めるために、教育の技術的テーマに関する課題を検討する。

◆準備学習

教育方法学と密接に関係する「教育原論」や「教育の歴史」を事前に履修しておくことが望ましい。また、16世紀以降のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的な知識を養うことができる書籍を読んでおくことを勧める。

◆授業の計画及び方法

- 第1章 教育方法学とはどんな学問か
- 第2章 わが国の教育方法学研究の歴史
- 第3章 学校教育とカリキュラム
- 第4章 授業の形態と集団の編成・指導
- 第5章 授業形態の多様化
- 第6章 学級編成と学級運営
- 第7章 小集団指導
- 第8章 教育の技術とはなにか
- 第9章 授業の展開
- 第10章 授業の展開を豊かにする物的手段
- 第11章 教育評価
- 第12章 教育の方法

◆教科書

『教育の方法・技術論 0926』通信教育教材（教材コード 000341）

◆参考書

- 『教育の方法と技術』沼野 一男著（玉川大学出版部）
- 『教育の方法と技術を探る』大野木 裕明・森田 英嗣・田中 博之著（ナカニシヤ出版）
- 『教育方法学』佐藤 学著（岩波出版）
- 『授業』斎藤 喜博著（国土社）
- 『教育学の名著 12 選』梅根 悟・長尾 十三二著（学陽書房）
- 『教育方法』細谷 俊夫著（岩波全書）

◆成績・評価

最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◆授業のねらい

現在学校の課外活動として行われている特別活動が教育課程の中でどのように位置づけられ、青年期の人間形成においていかなる意味をもつか、その特別活動が戦前どう取り扱われ、戦後いかなる過程を経て成立したか、について考察している。そして、今日の学校教育の中で展開されている特別活動がどのような目標をもっているか、個別の活動分野として、学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事がどういうものであるかを考察する。

◆準備学習

受講される皆さんは、自分の中学校・高校時代の教科外活動—たとえば学級・ホームルーム活動、入学・卒業式、生徒会活動、修学旅行、運動会・部活動など—の体験を思い起こし、その体験に何らかの意味を見出しつつ、本授業に臨んで下さい。「教育課程」に関する理解のみがやや難しい程度である。

◆授業の計画及び方法

- 第1章 「特別活動の研究」はどんな科目か、またどうしてそれを学ぶのか
- 第2章 教育課程と課外活動（特別活動）の関係
- 第3章 教育的価値として認められた課外活動の実例（1） —遠足と運動会—
- 第4章 教育的価値として認められた課外活動の実例（2） —学芸会と相談会—
- 第5章 課外活動（特別活動）の教育課程化とその条件
- 第6章 自由研究の新設と特別教育活動への移行
- 第7章 特別活動の成立とその後の歩み
- 第8章 2008年の学習指導要領の改訂
- 第9章 特別活動の改訂と目標
- 第10章 学級活動の目標・内容・内容の取扱い
- 第11章 生徒会活動の目標・内容・内容の取扱い
- 第12章 学校行事の目標・内容・内容の取扱い

◆教科書

『特別活動の研究／特別活動論 0942／0943』通信教育教材（教材コード 000443）
※この教材は市販の『最新 特別活動の研究』関川悦雄著（啓明出版）と同一です。

◆参考書

なし

◆成績・評価

受講状況（30％）、理解度チェック（30％）、試験（40％）。理解度チェックをすべて提出していることを前提に評価します。

◇国文学演習MA－万葉集の説話歌を読む－(開講単位数：1 単位) 担当者：近藤 健史
充当科目コード(各自の履修状況により指定してください。)
0386 国文学演習Ⅰ, 0387 国文学演習Ⅱ, 0388 国文学演習Ⅲ
0389 国文学演習Ⅳ, 0390 国文学演習Ⅴ, 0391 国文学演習Ⅵ
配当学科：文理学部文学専攻(国文学)のみが対象 配当学年：3 学年以上

◆授業のねらい

万葉集の説話歌についての理解を深めるとともに、調査、研究、発表などを通じて、国文学研究の基本的な方法や論文の読み方など、基礎的な力を養うことをねらいとする。

◆準備学習

万葉集について、特に万葉人の生活や風習など概説的なことを学んでおいて欲しい。

◆授業の計画及び方法

<計画>

- (1) はじめに
- (2) 国文学演習入門
- (3) 万葉集入門
- (4) 説話歌入門
- (5) 学生による研究報告(1 2 章まで)
「妻争伝説歌」 「説話歌の美女」
「虫麻呂歌の女性像」 「水江浦島児の歌」
「真間手児奈伝説歌」 「竹取翁歌」

などに関して8テーマについて研究する。

<方法>

万葉集における説話歌を読み、調査、研究した結果をメディア(パソコン)を利用して発表する。各テーマに関する先行研究を整理した上で、自分独自の見方・考え方を報告して欲しい。初めは講義を行うが、学生個々による発表と質疑の形式にする。なお、人数によりグループによる発表形式もある。自宅にいて、パソコンを通じて演習をするという新しい形ゆえ、楽しくやりたいと思っている。

◆教科書

『訳文 万葉集』森 淳司編 笠間書院

◆参考書

授業中(パソコン)内の参考文献で指示してある。

◆成績・評価

発表内容60%、質疑応答内容20%、レポート20%による評価。

※既にメディア授業で「国文学演習 MA」を合格した学生は、受講できません。

◇哲学演習 MA (開講単位数: 1 単位)

担当者: 本間 司

充当科目コード (各自の履修状況により指定してください。)

0581 哲学演習I, 0582 哲学演習II

配当学科: 文理学部 哲学専攻のみが対象

配当学年: 3 学年以上

◆授業のねらい

本年度の演習テーマは「カント哲学と生命観」です。近年の遺伝子操作や生命倫理等の概念に内包する意味をカント哲学の認識論及び存在論と対比させて、現代における生命観の確立を検討することが授業のねらいです。

◆準備学習

西洋哲学史を概説した本を読んでおいて下さい。
簡単なもので結構です。

◆授業の計画及び方法

まず、カント哲学が成立する為のロック、ヒューム等の英経験論及びデカルト合理論の認識論を考察します。次いで、カント哲学の認識論の根幹をなす「先験的綜合判断」の可能性を検討します。この認識論(理論理性)の及びえない存在論(実践理性)を自覚すると共に、この存在論が現代の生命観とどの様に相違するかを検討する。以上の授業を前半は理解を深める為に講義形式を基本にし、後半はディスカッションを中心として進める。

一応の授業計画は下記の予定であるが、受講者の理解する程度に応じて進める。

- (1) カント哲学の概略 (7) 『純粋理性批判』の検討Ⅲ
- (2) ロック、ヒュームの認識論 (8) 『純粋理性批判』の検討Ⅳ
- (3) デカルトの認識論 (9) 『実践理性批判』の検討Ⅰ
- (4) カント哲学の認識論 (10) 『実践理性批判』の検討Ⅱ
- (5) 『純粋理性批判』の検討Ⅰ (11) 『実践理性批判』の検討Ⅲ
- (6) 『純粋理性批判』の検討Ⅱ (12) 『実践理性批判』の検討Ⅳ

◆教科書

『方法叙説』デカルト、『純粋理性批判』、『実践理性批判』カント、その他ロック、ヒュームの著作(以上岩波文庫)。ただし、授業で用いる範囲のものはコピーを配付する。

◆参考書(参考文献等)

『科学哲学 0575』通信教育部教材(教材コード000142)

◆成績・評価

レポート及びディスカッションの成績による。また、最終レポートを書いて貰い総合的に判定する。

※既にメディア授業で「哲学演習 MA」を合格した学生は、受講できません。

◇日本史演習 MA（開講単位数：1 単位）

担当教員：竹中 眞幸

充当科目コード（各自の履修状況により指定してください。）

0681 日本史演習Ⅰ，0682 日本史演習Ⅱ

配当学科：文理学部史学専攻のみが対象

配当学年：3 学年以上

◆授業のねらい

卒業論文の作成にむけて、主に近世を中心とした史料の読解力を養うと共に与えられた課題に対し、自ら調査・考察し、その成果を報告するための方法を学ぶ。

◆準備学習

授業においても述べると思うが、テキストの『民間省要』は、享保改革に対する批判・提言の書、という性格をもつものである。

したがって、享保改革に関する基本的知識をあらかじめ得ていることが望ましい。

なお、同改革についての詳細は、授業において講義する予定である。

◆授業の計画及び方法

授業の方法は、メディアを利用しての学生のテキスト（田中丘隅著『民間省要』）読解と内容についての報告、及び、それに対する教員からの評価・補足説明を中心に進める。課題報告のテキスト部分は、受講者個々、または、グループごとに指定するが、報告に対する質疑応答は、受講者全員が参加して行うものとする。

第1 回～第4 回教員による講義（史料読解のための基礎知識、テキストの解題、時代背景の解説、報告のしかたについての説明など）

第5 回～第12 回学生による課題報告とそれに対する受講者全員・教員との質疑応答、及び教員による評価と補足説明

◆教科書

『民間省要』田中丘隅著（授業で使用する部分は事前にコピーを配布する）

◆参考書

『国語大辞典』（小学館），『国史大辞典』（吉川弘文館）

『岩波講座・日本通史』13 巻・近世3，『地方凡例録』上・下（東京堂出版）

※詳しくは各テーマごとに紹介する。テキスト各条についての関連史・資料を適宜提示する。

◆成績・評価

メディア授業の受講状況（学習頻度）と報告内容（60%），及びインターネットを利用しての受講者間，教員との質疑応答への積極的参加度（40%）。

※既にメディア授業で「日本史演習 MA」を合格した学生は、受講できません。